

Y02a 流星電波観測国際プロジェクトからみる社会参加型科学研究

小川宏 (筑波大・自然)、豊増伸治 (みさと天文台)、大西浩次 (長野高専)、前川公男 (福井高専)、
矢口徳之 (AMRO-NET)

2001年からスタートした流星電波観測国際プロジェクトは、流星群活動をリアルタイムでモニターし流星群の全容解明を行うために組織されたものであり、2003年には、23カ国176地点、国内120地点という大規模なプロジェクトに成長した。このプロジェクトで観測されたしし座流星群をはじめとする流星群の観測結果は集計・解析され論文や学会・研究会などで発表し成果を上げている。

本プロジェクトの参加者の年齢・職業は幅広く、プロ集団でなければ単なる同好会的な団体でもない社会参加型の科学研究という新たな研究スタイルを展開してきた。通常、観測プロジェクトはプロ主導で実施されることが多いが、本プロジェクトは技術・観測・解析などの各分野で参加者自身が得意な分野を活かすため、参加者の幅は広く、また活躍できる分野も多い。つまり、参加者それぞれが自分にあったスタイルで科学研究を行っているのだ。

また、本プロジェクトはインターネットを最大限に活用したため、短期間で国際化が実現され、前述のようなスタイルを世界的に展開することが可能となった。このプロジェクトは、市民参加型の科学研究の進めるひとつの具体例であり、さらに、インターネットを介した世界市民共有の科学文化の創造のひとつの成功例であるといえる。